

一帯一路地域における環境産業の発展

周 瑋生

環境産業は、「農業」「福祉」と並んで21世紀の成長産業といわれる。中国を始め、北東アジア地域の環境問題を解決するためには、環境産業の発展は必要で不可欠な前提条件となる。日本は1970年代初頭より、主として公害防止技術・装置にかかるビジネスとして誕生したエコビジネスは、今日においては、全産業のみならず、政府・地方自治体・教育機関・市民団体等あらゆる分野において重要なビジネスとして展開し、環境産業の基盤を形成してきた。エコビジネスは、公害対策型、環境保全型、環境創造・維持管理型、情報型など、環境とビジネスとの関係を類型化できる。環境産業の発展は、これまでのエコビジネスの類型を超え、産業としての形成がなされつつあるといえよう。環境産業は、①環境支援関連分野、②廃棄物・リサイクル関連分野、③環境修復・環境創造関連分野、④環境調和型エネルギー関連分野、⑤環境調和型製品関連分野、⑥関連調和型生産プロセス関連分野に類型できる。日本は環境・公害・課題先進国としてこれまで開発された技術やノウハウは国内市場を超え、海外市場特に一帯一路沿線諸国に移転できれば、国内産業振興を図ると同時に、発展途上国の持続可能な開発にも大いに寄与できる。